

平成 20 年度市政懇談会会議録〔嶺田地区〕

日 時 平成 20 年 8 月 20 日 19:30~

会 場 大石構造改善センター

参加者 64 人

市長からの市政報告のあと、参加者の皆さまとの懇談(質疑応答)に入りました。

懇談(質疑応答)

中嶺田 男性

井矯堂線です。ポエム新月さんの前から静岡銀行さんまでの区間ですが、前からあそこの道路の拡幅につきましては、話にちよくちよく聞いてはいましたけれども、未だにまだ手をつけられていない。あそこで車の動きを見ますと、ポエム新月さんのところから井矯堂線に入る車の方が多い。代官さんの裏にまわる道路より車の数が多いのではないかと思う。細い道でたくさんの車が通る中、嶺田方面からしますと岳洋中学に通う子供の通学路になっている。私もよく通りますけど、通学時間には本当に気をつけないと車があっちから来たり、こっちから来たり、中学生は田んぼの隅の方によけなければ通れないような状態に思います。そういうことで嶺田地区とすると、あそこの道路をぜひ広げていただいて、車がうまく通れると同時に、子供の安全も考えると歩道のようなものを付けていただきたいと思います。

市長

井矯堂線については地域のみなさんから毎年強い要望をいただいておりますので、私も承知はしております。したがって、平成 17 年度と 18 年度にかけて、全体事業費を把握するため、道路と小松洗橋の詳細設計を行いました。その中で今検討していますけれども、小松洗橋の河川協議とかあるいは、国交省になります。掛浜バイパスの交差点協議などこれからも協議を続けていきたいと思っております。先ほどお話しましたように、非常に厳しい財政状況でありますので、いろいろと行財政改革をする中で、優先順位は私も承知しておりますので、国の補助とかいろんな手法を考えながら進めていきたいと思っております。

中嶺田 男性(再質問)

時期とかは全然わからないということですか。

市長

いろいろな事業計画とかを立てていますので、また具体的な年度等が決まりましたら、その時には地域の皆さんや地権者の皆さんにも、地元の皆さんにも説明させていただきたいと思います。具体的に来年からやりますとかいうことではなく、今、総合計画やいろいろな計画がある中で、名前が消えてしまっている訳ではありませんので、その点をご理解をいただきたいと思います。

東嶺田 男性

市道西 62 号線の改良について確認させていただきます。昨年 8 月 31 日に開催された嶺田地区市政懇談会におきまして、東嶺田自治会より「生活道路・通学路の安全確保対策」の観点から、市道西 62 号線の問題点と改良工事の必要性について問題提起をいたしたところです。

その後、市の担当課が現地視察するなどして、地元と協働しつつ安全確保対策のあり方について見当を進めていただきました。一方、地元といたしましても、地権者をはじめとする関係者とのコンセンサスづくりや嶺田地区土木委員会の協力、更には要望内容の具体化を図りその熟度を高めるなどに努めてまいりました。

そこで本件につきましてお尋ねします。ただ今申し上げたように、当該「生活道路・通学路の安全確保対策」については、事前の前裁きの過程を通過し、いよいよ行政当局の具体的な行為が期待される段階に至ったものと考えられます。現段階における状況及び今後の見通しについてご説明をいただきたいと思えます。

市長

私も昨年 8 月の市政懇談会で、写真で非常に詳しくいただいたのは承知しております。そして建設課の方にも通学路でありますので、優先的に取り組むように指示をしております。地元の皆さんと協議をさせていただいて、地元の方のご協力とご理解をいただいていると伺っております。従いまして、この通学路としての安全対策というのは、私は非常に重要だと思っておりますので、今、優先順位をあげるなかで、こういった事業は本来は当初予算といたしまして、3 月議会で提案をさせてもらって、何年間でこの事業は完成させるとかということ年度当初に事業計画をさせてもらうんですが、重要性というものを私も認識しておりますので、来月から 9 月議会が始まるので、そちらで調査費については、予算提案をさせていただきたいと思えます。

ここに議長と寺本さんがいるので、2 人がダメだということ予算がつかなくなりますが、議員の皆さんがお認めいただければ、この予算が通れば調査をしま

た来年度から事業が進むといった状況ですので宜しくお願いします。従いまして提案は、予算提案は、私の方からさせていただきますので、その点はご承知いただければと思います。

大石 男性

私は、学校職員をしておりましたが、平成 4 年に退職しました。それで、生仁場の橋の信号のところが大変危険なもんですから、自主的に毎朝旗振りをして、本年で 16 年目を迎えております。それでですね、感じていることですが、私が旗振りをはじめた平成 4 年の 4 月ですが、大石の子供たちは、小学生 30 名余おりました。中学生も 10 何名かおったわけでございます。ところが現在は、中学生がたった 3 名であります。男の子が 2 人と女の子が 1 人と大変少ない状況であります。小学生も前には 2 グループで登校しておりましたが、いつしか 1 グループになりまして、一昨年は小学生が 7 名というこういうような大石の状況でございます。大変子供が少なくなった。子供が少なくなれば、未来は非常に厳しいと思います。なぜそうなるかということは、菊川に住む人が減るということは、将来性は本当に寂しいわけでございます。

先ほどの、子育て支援のお話を伺いますと大変嬉しく思うわけですが、これもぜひ菊川が住みやすいところという風にならなければ、若い人たちも住んで、子供も伸びていくのではないかと思います。

本年はいくぶん小学生が増えまして、嬉しいなと思っておりますけれども、大変そういうこどもの動きを、人数を見ながら、将来の菊川市、大きく言えば、日本全体の問題になろうかと思うわけですが、ぜひそういう点には橋も道路もちろ必要ですが、子供のそういう子育て支援、これはいろんな問題を含んでいるとは思いますが、今後ともぜひお力添えをいただきたいと思えます。

2 つ目ですが、小菊荘の建設を今やっただいて大変嬉しいですが、夏になりますと子供たちをつれた親がたくさん見えて、遊具で遊んだり、ボール投げをして楽しんでおりますが、山へ前に作られましたアスレチックですが、あれが危険だということで縄が張って入れなくしてあるわけですが、縄が張ってあるだけでは、中に入れる子供もいるわけですので、大変危険だなあと思うわけです。あれはどういう風な管理をされて、将来はどういう風にするのか。ただ縄を張って「危険だからダメです」というだけでは何か寂しい。大石の住民としては寂しいところでございますので、あれは独立採算性だから小菊荘の支配人が考えることだと言ってしまうまでもありますが、それを支える市があるんじゃないかなと思うわけでございます。今、大石の頑張っている人たちが小菊荘を守る会というので頑張ってくれていますが、ありがたいことだと思

うので、そういうところで市では幾分でも支援していただければ、また変わった形で、あそこのアスレチックも変わるんじゃないかと思うわけです。そんなところも考えていただきたいと思います。

最後ですが、コミュニティ云々という話がございまして大変いいことだなあと、各自治会が中心となって自分たちの力で頑張っ、市は1%の助成をするというようなお話があった訳ですが、いろいろ発言がされることもあって、そういうところには市は目を向けるわけですが、だまっている人のところにはいっこうに目を向いてもらえない。これは国も同じだと私は思うのですが、後期高齢者の問題もそれで爆発したと思うわけですが、今、長寿なんとかと名前を変えて形を整えようとしています、言えない人たちがいっぱいいるんだと、このことも市政をつかさどる皆さんにはしっかりと心得ていただいて、そういう声なき声も、市に生かしていただきたいと思います。言う人のことだけを聞くという姿勢ではあってはならないと思います。

市長

いろいろとご指導ありがとうございました。子育て支援につきましては、先ほど申し上げましたように、これからの菊川市の非常に重要な課題ですから、定住人口を増やすということは、やはり若い人たちに菊川市の良さを知っていただいて、子供さんをたくさん生んでもらって、それで元気のある地域をしていきたいということでございます。従いまして、これからやはり若い世代の皆さんにも菊川市に住んでもらえるようなまちづくりをしてまいります。こういう話をしますと、今度高齢者の方から、「年寄りはいいいのか」とこの前も言われたですけども、決してそうではありませんので、高齢者の方にも福祉の関係とかそういうことも考えていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

小菊荘の話であります、こちら今回の小菊荘のあり方につきましては、地元の皆さんから強いご協力をいただくなかでリニューアル化に向けて進めることが出来ました。これからは、作った以上は、地域の皆さんや市民の皆さんに喜んでいただける小菊荘にしていきたいと思っております。また周辺の整備につきましては、次の段階として、まず小菊荘をきちっと耐震化をする中で、市民の皆さんに喜んでいただいて、次の周辺整備については考えていきたいと思っております。

そして、コミュニティを中心としたという話であります、当然、声なき声の皆さんにも、何らかの形で職員も感じ取りながら、この菊川市のまちづくりを進めていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

中嶺田 男性

たまたま今日、市役所の小笠支所のほうに行ってきた話しなんですが、私は中嶺田の自主防の消防ポンプありますよね。そのポンプがたまたま油を入れるタンクがダメになってしまって、役所へ行ってどこへ直しにいったらいいかと言ったら、菊川の奈良野にある河原崎商事へ持っていったらどうですかというアドバイスをいただいてもって行きました。そうしたら、「このポンプは古いポンプだな、部品はないぞ」と言われた。ないぞと言われても、自主防のことなので、なくては困るので「何とかしてくれ」と無理やり置いてきたわけですが、直る可能性はあんまり無いという返事でした。そういうことでたまたま小笠支所に行った時に、「ポンプが無くなってしまっただけは困る、何とかならないか」という話をしたところ、「自治会で買ってください」と言われ、確かに自治会で買えばいいかもしれないけれども、自治会もそうお金が余分にとってありません。ということで、困ったなということです。そうしたら、来年になればまた市の方でも予算をつけるので、それで買ったということですが、いつ地震が来るかわからないし、その間、何とかならないかと担当の方とお話させていただきましたが、来年になって買えなら買えで結構ですが、その間何かあってはいけないから市で持っている、消防で持っているポンプを貸しておくとか何かそういうことは出来ないかどうか伺いたい。

小笠支所長

先ほど言った補助制度があって、新市になってその補助制度をやっていますので、その補助制度でやってもらう。それから修理期間の代替は、安全課の方でやっておりますので、確認してご連絡したいと思います。そういったこともあろうかと思しますので、安全課と協議をさせていただいてご報告をさせていただきますと思います。

西ヶ崎 男性

先ほど、市長のお話を伺っている中で、企業誘致で活力あるまちづくりというようなお話があって、大変心強いと思いますけれども、私は活力だけでなく、魅力のあるまちづくりをぜひやってもらいたい。というのは、私も最近娘が遠くに行っていてお盆や正月に帰ってくるんですが、菊川市の中に都会の友達を連れてきて、連れて行くような場所が1つもない。たまたまこの前、親戚の法事に行きまして、磐田にララポートという大きな商業施設が出来るという話をしてしまして、それが私の親戚の隣に出来るということで非常に羨ましく感じたところです。

菊川市の中でも、魅力のあるまちづくりを考えた時に、そういった商業施設みたいなのは非常に大きな荷になると思いますが、かつてちょっとそんな話が

新しい道路の近くに出たような気もしたんですけども、そういう地域の核となるような、あるいは若い人たちが都会の友達を連れてきても、連れていけるような核となる大きな商業施設といったものの計画や話とかが今あるのかどうか、あるいは、今後どういう風にやっていくのか、その辺の見通しや市長の考えを伺いたい。

市長

魅力のあるまちづくりは非常に難しいと思います。今、言われたような商業施設というのもありますが、1つは掛浜バイパスの先ほどお話した宮の西の道路を作った投資効果が出たというのは言えると思います。

もう1つは、これから静岡空港ができて、御前崎港や473バイパスとかそういった新たなインフラ、社会資本整備が投入されることは1つの魅力だと思います。当然、先ほど言ったように、菊川市以外だから手をこまねていては何も出来ませんから、当然これからの菊川市の空港の臨空都市としてのまちづくりとか、あるいは、港を使った工場輸出とかやっていかなければいけないと思います。

今、大型の商業施設の話がありましたが、実際2年ほど前に大きな商業施設を建設したいという話があったことも事実であります。いろいろと場所によりましては、いろいろな補助事業が絡んでいたり、あるいは多くの地権者とか、商業者とかという関係の中で簡単にはいかないということでもあります。

また今では、菊川のJRのアンダーとあって、北側に道を作る事業を進めていますが、その北側にも話はいくつか出ております。当然そのような企業が、商業施設がぜひ菊川に出展したいといわれるような活力、購買力のあるまちにしていかなければ、そういった施設もこないと思いますので、そのためには定住人口を増やすとか、人口の減少化をくいとめるといった施策をまずやる必要があると思います。

おかげさまで菊川市の人口も県下、静岡県では去年、対前年比がほぼ同じであります。菊川市はおかげさまで人口が増えておりまして、近い将来には5万人を達成するだろうと思います。当然、外国人の多いまちでもありますので、そういった共生とかを考えながら、魅力のあるまちづくりをしていきたい。やはり、若い人たちが住めるというまちづくりは、1つのそのまちの魅力のパロメーターだと思いますので、そういったことも意識をしながら、先ほど言いましたが高齢者の方にも安心して老後がおくれると言われるようなまちづくりを、非常によくばりな考え方ですが、そういったことを考えながらのこれからの計画をきちっと立てていただきたいと思います。

大石 男性

コミュニティバスの件について質問します。私の家の前がちょうどコミュニティバスの通路になっているので見ているんですが、あのバスに8人から10人くらい乗れるのではないかと思います、ほとんど乗っている時がない。今までは確か、旧小笠町の時は、タクシー券を使っていたと思うんですけど、タクシー券とコミュニティバスの本当の利用率はどれくらいかなと思います。提案としては、利用率がどうか知りたいのと、逆にもっとコミュニティバスを処分、やめてしまうのではもったいないというのなら、何か老人クラブとか見ているとグループの人たちがどこかに行くとかありますけど、そういう時に安く利用できるようにしたらどうかという考えがあります。

そのコミュニティバスの現在の利用率がどれくらいか。タクシー券にしたらどうなのかということ。もう一度見直したらどうか、もっとそれから老人クラブみたいな人が団体で利用するときに、そういうのを使えないかということをご提案します。

市長

コミュニティバスは、小笠町と菊川町が合併するときに合併協議会の中で、1つの約束と申しますか、その中でコミュニティバスをやろうという1つの約束があったことはございます。それから1年間半ほど、コミュニティバスをどのように市民の皆さんにご利用いただけるかということを中心として詰めてまいりまして、昨年の4月から本格的に導入をしました。

それで、今どれくらい乗っているかということですが、1日100人から110人ということで当初の目標をたてたわけではありますが、毎月報告がきておりますので、私の記憶の中では、1日だいたい120人から130人くらいの方が7路線の中で、130人前後の中で毎日御利用いただいている状況でございます。

今、それを他のほうに利用するかどうかということにつきましては、担当部長が今日来ておりますので、少しお話をさせていただきたいと思っております。

大石 男性(再質問)

120人利用しているということですが、1部の区間じゃないかと思う。極端に言うと、町とか車の便利なところで、ある程度近い、そういうところの利用者が多くて、それ以外の大石なんかの人が菊川病院とか他のところに行くというときに、どうしても急いでいきたい時には、結局は他の個人の車とか何かで行くほうが早いというようなことで、本当の利用というか、ゆっくりどっか遊んでてもいいよという人が乗っているような感じもするし、それからその120人というのは本当の便利のいい近くというところが多いのではないかと

う。そういう調査はされているかどうか。

付け加えると、この地区だけを捉えるのではなくて、他のところの路線バスと、近くの利用率とかけ離れている利用率がどうかというのを調べてみたほうがいいと思います。遠いところは、行きたいところへ行く時間がどうしてもかかるということで、タクシーなんかを使ってしまうので、一層タクシー券の方がいいのではないかと感じています。

総務企画部長

コミュニティバスにつきましては、先ほど市長がお答えしたように、毎月乗車・降車人数は把握していて、管理しております。そういったことで、今言われたいろいろな方面や地区でということですが、基本的にはそういった管理をしております。

乗る方も目的によって、今言われたように、いろいろな目的で乗られる方がありまして、時間的なバス・コースだとか、時間帯によって混みようとかあると思いますが、先ほど言ったように合併の時の、コミュニティバスを走らそうということで基本的に今スタートしております。

コースの選択とか乗り降りの都合によって、やはりお客さんが変わってくると思いますので、そういった場所の変更とかそういうことについては毎年見直しをかけていっているということです。

大石 男性(再質問)

仮にコミュニティバスを使って、今言ったコースの変更とか、乗る場所を変えたら利用者が増えるかといったら、そうじゃないと思います。本当の近いところの要件を済ませる利用する率がどうかというのを調べて欲しい。極端に言うと菊川市内が非常に多いというなら、そこは残しておいて利用者の少ないところは、タクシー券にしたらどうか、そうすれば経費が浮くような気がするんですが。

市長

遠いところの方のほうが利用が多い。それで例えば、一番病院が主だと思えますが、丹野・嶺田あたりが1日だいたい20人くらい、それから西循環が17・18人、それから東循環が20人くらい。それから西方・沢水加という地区があるんですが23人、倉沢・富田が30人ということで、遠いところの利用者の方が乗車が多いというようなデータになっている。従いまして、一番少ないのは奈良野とか布引原とかは1桁くらいですので、やはり遠いところのほうが利用度が高いという数字です。詳しいデータは御案内したいと思います。

大石 男性(再質問)

極端に利用率が少ない時は、老人クラブとか何かでどこか行きたいときに利用するような使い方はできないでしょうか。

市長

月曜から金曜日まで毎日運行しております、その時間を業務委託しているわけなんです。市の職員がやっているのではなくて、業務委託でやっておりますので、土日が空いているから土日を使ったらどうかとか、あるいは夜が空いているなら夜に市内散策とかに使ったらどうかなどいろんな意見をいただいておりますので、それはなかなか難しいところがありますので、それはまた運営協議会がありますので、そのような話があったことは話をさせていただきますが、そうすればそこで1人の人工が出たりいろいろしますので、ただ、それを他に運用できるかどうかということは、また持ち帰りまして、その福祉の関係の方で話はしていきたいと思います。

堂山 男性

コミュニティ会館の考え方がこれでいいかという確認をさせていただきたいのですが、当初コミュニティ会館を作るということになった時に、各部落に公民館がありまして、公民館の親方みたいなものを作ってもしょうがないという話がまず1つありまして、その中で未だに私自身もコミュニティ会館というのは、具体的に何をやるのか良くわかっていない。市の方からいろいろ話を聞くと、地域の住民がいろいろ考え、自分たちでいいように使えばいいという風な理解をしている。当初その段階では耐震工事をしていただいた小菊荘は、あれは耐震工事ができていないから危ないよ、どちらかというとな廃止みたいな方向だと、当然今、ひらかわ会館もそうですけれども、コミュニティ会館というのは、避難場所も1つ兼ねているように私は理解している。

そういうことから言いますと、小菊荘はもともと宿泊施設で、今回耐震工事をしていただいたということですので、嶺田のコミュニティ会館を、まだ設計できてないと思いますけれども、設計の段階で避難所的な性質は全て小菊荘に移管といいますか、小菊荘を避難所とするというような形の設計、今後の進め方にしていえるものかどうか、その辺についてお考えを聞かせていただきたい。

市長

まず、コミュニティセンターの考え方ですが、今お話がありましたように、やはり先ほどもお話ししましたが、各学区に1箇所の地域を核としたまちづくり

を進めるために、菊川市としては各地区センターを学区ごとに、嶺田の場合は、北小の場合は、嶺田と平川と2つありますけれども、基本的にはそういう考え方です。これからどのようにしていくかということにつきましても、うちの担当の者が申しあげましたように、これから地域の皆さんが、それを核としてどのような地域づくりをするか、人づくりをするかということは、お話があったとおりですが、聞き取り違いかもしれませんが、避難所を嶺田の会館ではなくて、小菊荘が今度耐震化するので、嶺田地区の皆さんはそちらを避難所としていいかということですか。

堂山 男性(再質問)

万が一の場合は避難所とすれば、小菊荘がよりふさわしいのではないかと思います。

市長

私は逆に、嶺田のコミュニティセンターをこっちにもってくるということかと思ったけれども、そうではないということですね。ちょっとそこまでは、私も今、考えておりません。

支所長

今、市長から申しあげましたように、今度作っていただく地区センターにつきましては、コミュニティの拠点として地域の皆さんに活用していただく。面積的なものがありまして、市の計画では小菊荘が市の支部になり、それから北小が市の支部になり職員が配置される。北小については、救護所も兼ねたものになる。基本的には体育館が収容する場所になる。小菊荘も当然そういうふうに使われるという計画になっています。コミュニティセンターは、ちょっと規模が小さいもんですから、確かに防災的なものと捉えられますけれども、市の全体的な支部としては、北小と小菊荘になっております。またそれは、コミュニティ協議会の中で、皆さんの話し合いの中でいろいろと詰めていったらどうかと思います。

男性

今の質問の続きですが、地区センターの代わりに小菊荘を使うことはできませんか。そうすれば、今だいたい市町村の赤字というのが建物作りで赤字になっていると、それですから1つでも減らすということです。

市長

小菊荘を残すか残さないかという時に、地域の皆さんからも大変強い要望がございました。やはり議会の中でも、老朽化する中で、いろいろな話もあった中で、地域の皆さんの強い要望の中で小菊荘は存続してもらいたいという話でした。

その中で、条件としまして、やはり地域の皆さんからは、ずっと公設公営ではなくて、やはりこれからは指定管理者制度とか、あるいはいろんな経営手法を導入して、市に負担をかけないようにも考えてやってもらいたいということもありましたので、そういったいろんなもろもろのことをこの1.2年かけまして、協議をして、小菊荘のこれからの経営というものを市民の皆様の負担にならないように取り組んでいきたいと思えます。大変ありがたいご提案で、箱物でお金がないから小菊荘を使えばいいじゃないかと。これからの小菊荘の運営は市民の皆さんにも喜んでもらって、財政負担にならないように、それはこれから私たちも議会の皆さんや市民の皆さんにもご理解いただいて経営方法については、これから早急に考えていきたいと思っておりますのでまたよろしく願いしたいと思えます。

男性(再質問)

小菊荘を直すということで、ですから地区センターをやめてそちらに。

市長

今のところは、いろいろなお考えもあるようですが、このような形で進めさせていただいておりますので、そこら辺は有効に活用いただきたいと思います。

大石 男性

駅前広場の整備の件で、完成予想図など提示していただきましたけれども、ある面菊川市の顔としての駅前、菊川市を目に訴える、アピールできるようにそういう構想などあるようでしたら、お聞かせいただきたい。工期なんかもお聞きしたい。

市長

今、事業の方は21年度末で完成ということになっております。駅南の区画整理事業の全部が21年度末を持って完成ということになっておりまして、JRの駅前につきましては、全てが完成する前に部分的に開放いたします。それで今お話ししましたように、今日の午後に東側を開放して、12月の始め頃には東側を開放して利便性を高める。降りたイメージにつきましては、今、モニュメントを考えておりまして、先般、一般公募をさせていただきました。その中で57点

ほど応募がございまして、今日たまたまその表彰式を行いまして、多分、明日か明後日の新聞に載るかと思いますが、だいたいどのようなモニュメントを、これというのは決められないですが、モニュメントの検討委員会がございましてその中で方向を出していただきますが、来年の21年度の予算でそのモニュメントあるいは計画といいますか、そのいろいろな修景と申しますか、そういったものを21年度予算で取り組んでいきたいと思っております。

1つは、今までの駅前広場の1,500平米でしたのが、今度4,700平米ですから3倍の広さになるということと、それからバリアフリーですから子供さんからお年寄りの方までご利用いただけるということと、エレベーターを作ったり、そういった市民の皆様に使やすい駅広にしていきたいと思っておりますので、いろいろとお気づきの点がありましたら、また変更できるところはしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。